

妊娠中や出産後、歯の治療を行っても大丈夫？ 治療について教えてください。



ロイヤルベルクリニック
近藤千裕先生

愛知学院大学歯学部卒業。名古屋大学大学院医学系研究科COE博士研究員、愛知学院大学歯学部生化学講座助教を経て葵鐘会歯科部長に就任。

A 赤ちゃんの歯を虫歯から守るには 妊娠前、妊娠中のケアが大切です

レントゲンや薬は胎児に影響がありますか？

近藤先生(以下、近)

レントゲン撮影は診療上必要な場合のみです。防護衣を着用して腹部を遮へいすれば、胎児への被曝はほぼゼロです。また、薬の種類によっては胎児への影響があります。何も薬を飲まずに我慢すると、胎児に悪影響となることもありえますよ。ーでは、どう対処したらいいですか？

いる。マタニティ歯科では、有益性が危険性を上回ると判断できる

ケースに限り、産科と

の情報共有に基づいて、赤ちゃんに影響がない胎盤通過性が低い薬を処方しています。ー虫歯を放置しておく

さんの虫歯菌の質を変え、量を下げることが重要です。赤ちゃんの将来の歯のために、妊娠前・妊娠中に虫歯治療を済ませ、さらに歯科医師の指導のもとでキシリトールやフッ素を毎日の生活に取り入れて、虫歯リスクを下げていきましょ。

ー産後、母子ともに治療を受けられますか？

近

はい。お母さんの口の環境は、直接赤ちゃんに反映されるのでデンタルケアをしっかりとしましょ。赤ちゃんの歯は、虫歯菌に感染しやすい1歳7カ月～2歳7カ月をどう乗り切るかでその先、虫歯になりやすくなるかどうか決まります。歯磨きの仕方や歯が生えてからの食事など、気になることは医師に相談しましょ。